

## 都市計画質問 2011 年予特委～

### 1. JR 和田岬線の廃線検討について

交通局に引き続いて和田岬線の質問を行います。

第 5 次神戸市基本計画において神戸のにぎわいや活力をもたらすリーディングエリアの 1 つに兵庫運河周辺の兵庫南部地域が位置付けられています。

こうした中、昨年、11 月に地元団体より神戸市に対し、さらに今年 2 月初め、JR 西日本に対して、兵庫運河を活かしたまちづくりに向け、和田岬線の廃線も視野に入れた検討を行ってほしい、とする要望が提出され、これを受けた神戸市からも、JR に対して要望を行っています。

このニュースを聞いて、和田岬線を利用している利用者や周辺地域の皆さん、本当に驚いているというのが正直な感想ですが、平成 23 年度、都市計画総局では、和田岬線の活用検討のための予算案 300 万円が提案されました。

そこで、まず、要望の内容について確認をしたいと思います。市からの要望には、「街づくりを進める上で、和田岬線が地域を分断している」という点が、廃線検討の理由になっていますが、「地域を分断する」点について、具体的に説明をお願いします。更に、現時点での JR や地域の状況も併せて伺います。

< 検討のための予算案において、「活用」というのは、具体的にどういう方向で検討されるのか？ >

### 2. 「光の都」神戸のまちづくりについて

本会議に続いて、質問をさせていただきます。

本会議では、滞在型観光の活性化に向けて、市内各所のライトアップ手法の再検討や新たな光の拠点や視点場づくり、時間軸を設けた仕掛けなど、様々な提案を行いました。

平成 23 年度、「都市景観等整備事業費」として、夜間景観形成の推進に 800 万円という予算がたてられ、検討が加速されるものと推察しますが、本会議ではイメージのわきにくかった内容について、少し説明を行い、質問したいと思います。

#### ① 新たなシンボルとしての市役所、橋、山

市役所は、すぐにでも検討できるのでは？

橋や山については、航空法や国立公園などの規制等もあるが、実現できたらスケールが大きく素晴らしい。どうか？

#### ② 低炭素の視点も併せて、現在の照明の置き換え

フラワーロードもそうであるが、メリケンパークやその他、公園、街路灯に

ついて、イニシャルコストを多少かけても、その後の10年間の省エネにつながり、かつ、演色性にすぐれて花や景色が夜もきれいにみえるのであれば、置き換えを検討していくべきでは。

### ③ 視点場の開発

新たな視点場として、鉢伏山、須磨ロープウェイ。「清盛」の放映に向けても、一の谷の舞台でもある。新たなライトアップのシンボルを作るなど、取り組めないか。

### ④ 組織作り

都市計画総局まちのデザイン室を核として、商工会議所や鉄道会社、旅行社など民間も含めた、滞在型観光の集客に向け、夜景景観の組織づくりを呼び掛けてもらいたい。

## 3. 建築確認など、今後の建築行政の技術者の育成について

現在、市の財政健全化のため、行財政改革が断行されているところですが、外郭団体についても、縮小や事業見直し、廃止等の改革が行われています。外郭団体である防災安全公社が、今年度末で解散となります。

防災安全公社は、市民救命士の育成講習などの消防関連の事業のほかに、平成11年の建築基準法の改正によって建築確認が民間開放された中、指定確認検査機関として、準公的な立場で建築確認の業務を行ってきました。民間の検査確認機関が育成されていく中、防災安全公社のシェアは年々減少し、現在は10%程度となっていました。準公的な機関として、市の職員も派遣され、確認検査の実務経験を積んで職場に戻るといった運用が行われてきています。

今後、こうした実務経験の場が持てなくなってしまうが、どのように、建築行政の技術者を維持・育成させようとするのか。

また、関連して、今後は、検査確認機関がすべて民間となります。

民間の検査機関の技術や信頼性が向上していくことは、歓迎すべきことですが、数年前の耐震偽装の問題にみられるように、最後にジャッジを下す技術力を公的機関である都市計画総局が持ち合わせていかなければなりません。現在、立ち入り検査や、持ち帰り審査などを実施しているということですが、これら機関の審査やチェックをどうやって強化していくのか、伺います。

< 建築審査会 >

## 4. 歴史的建築物の保存活用について

現在、旧神戸生糸検査所は、景観形成重要建築物として神戸市が買い取り保存活用することを決め、保存改修のための工事に取っかかりかかろうとしていること

るです。改修後は、(仮称) デザイン・クリエイティブセンターとなって、デザインを志す人々の活動拠点として再生される予定です。

この建物、旧神戸生糸検査所は、神戸市の初代の営繕課長であった清水栄二氏によって設計・建築が行われています。

先日、同じ清水栄二氏の設計・建築で、最近まで、外科病院として活用されていた、長田の旧西尻池公会堂が、解体されることになるという新聞報道がありました。清水栄二氏は、このほかにも、現在、甲南漬資料館となっている旧高嶋邸、御影公会堂、駒ヶ林保育所、など多数の建築物を遺しています。

旧神戸生糸検査所については、先日、建築審査会の審議も終え、これから保存活用のための工事に入りますが、一方で、同じ建築家、清水栄二氏による建築物が、戦災や震災を乗り越えてきているのに、今、解体されようとしています。保存活用のために、行政としてもっと努力すべきではないですか？

～建物紹介～

- ・生糸検査所、御影公会堂、駒ヶ林保育所、甲南漬資料館

< 駒ヶ林保育所も。。。 >

## 5. 垂水地区におけるまちづくりについて

昨年末に公表された密集市街地再生方針において、市内で優先地区が4地区示されました。垂水区では東垂水地区が示されましたが、以前からこの地区は「東垂水まちづくり推進会」を中心にまちづくり活動に取り組まれており、2月18日には垂水区長に対して「安全安心まちづくり構想」が提出されたところです。

また、垂水駅北側の地区においても、商店や住宅が密集した地域があり、市場や商店街を中心とした再開発の検討、あるいは、地区内幹線道路の整備検討など、まちづくりの取り組みがありますが、地元では、様々な意見が存在します。

こうした地区でのまちづくり活動に対して、協働と参画のまちづくりを進める立場から、都市計画総局が地元に入って、調整役を先導して行うべきではないですか。

## 6. 「平清盛」「三国志」と新長田について

この3月に、鉄人28号に続き、三国志ガーデンもオープンが予定されています。

一方、委員会でもたびたび登場する「平清盛」については、新長田の再開発地区から近いエリアに、多数の史跡が存在しますから、三国志ガーデンや鉄人をお目当てに訪れる観光客ばかりでなく、「清盛」と併せても訪れてもらえるのではないかと思います。

観光バスの駐車場整備やおみやげものなど、観光地としての準備が足りないと感じますが、ご見解をお伺いします。また、街を周遊するには、観光客の方にも気軽に買い物をしてもらえる商店街の工夫が必要と思います。空き店舗が多いとせっかく初めてこられた方ががっかりしてしまうのではと思いますが、対策は？

( ◎景観100選について )

## 7. ニュータウンのまちづくりについて

明舞団地や須磨ニュータウン、鶴甲団地など、ニュータウンと言われてきた団地が、高齢化し、いろいろな課題を抱えています。また、ニュータウンではなく、HAT 神戸などのような復興住宅でも、震災時に入居された方が高齢化し、同様な課題を抱えています。

高齢者の方々には、できるだけ徒歩の圏内で、①食料品の買い物②通院できる病院③年金の受取の郵便局に行けることが重要な要素となっています。先日も、HAT 神戸の自治会の皆さんから、市長に郵便局の設置を求める要望が出されたところです。

大型店舗の進出や、車社会の進展等もあり、ニュータウンでの食料品や衣料品店などは、厳しい経営状況にあり、閉店になるお店も増加しています。ニュータウンを造成していた時代には想像していなかったこと、とにかく住宅を提供するのに必死だった、復興住宅の建設時にはそこまで考える余裕がなかったことが、今、問題となってきています。

こうしたまちの、課題についてどのように対処されるのか、伺います。

## 8. 低炭素都市づくりの推進について

平成23年度予算で、低炭素都市づくりの推進に向けた計画作成が盛り込まれています。

都市構造や都市活動に関連する分野でのCO2排出量削減を目指して、「都市構造・交通」「建築・面整備」「みどり」の3つの分野で、国交省のガイドライン

に沿って作成するとあります。

例として、例えばウォータフロント地域への自動車流入抑制なども、検討項目として挙げられていますが、具体的にどのような方向性で計画を進めていく方針であるのか、伺います。

＜ 計画でいくら、一つの交差点について渋滞量が多少減らせても、大規模店舗が進出するとたちまち渋滞が増え、あとで道路を拡幅したり、新たな道路を建設するのは非常に困難となります。周囲の住民は渋滞を我慢するしかない。渋滞になると CO2 の発生量は格段に増える。垂水では、北部の新しい住宅地エリアに大型店舗が増えています。他でも同様な渋滞があちこちで発生していると思われます。交通量調査は、進出しようとする店舗から近い交差点については実施されますが、その次の交差点については対象外です。交通量調査をぜひ＞

最後に、借り上げ住宅の返還に関して、午前中、口頭陳述が行われました。住み慣れた場所を離れるということで、特に高齢者の皆さんが、不安を抱かれるのは、心情としては理解できることだと思います。本会議において、市長からグループでの住み替えなども可能にしたいという発言もありましたが、できる限り個々の皆さんの状況に配慮した上で、進められることを要望いたします。